

# 第3回「斎藤分小学校・二谷小学校」 建替えに伴う学校規模適正化等検討部会 次 第

日時：令和4年7月4日（月）

18時30分から

場所：神奈川公会堂 1号会議室

- 1 開会
- 2 前回の検討内容の確認
- 3 寄せられた質問・意見について
- 4 議題「建替えに伴う学校規模適正化等の検討について」
- 5 その他、事務連絡等

## ■本日の配付資料

- 1 委員名簿
- 2 席次表
- 3 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会ニュース 第2号
- 4 事務局に寄せられた御意見等一覧
- 5 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等の検討について

## 《御意見・お問い合わせ先》

「斎藤分小学校・二谷小学校」  
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会  
（事務局：横浜市教育委員会事務局 施設部）  
Eメール：ky-kanagawa2021@city.yokohama.jp  
電 話：045-671-3252  
FAX：045-651-1417

「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会  
委員名簿

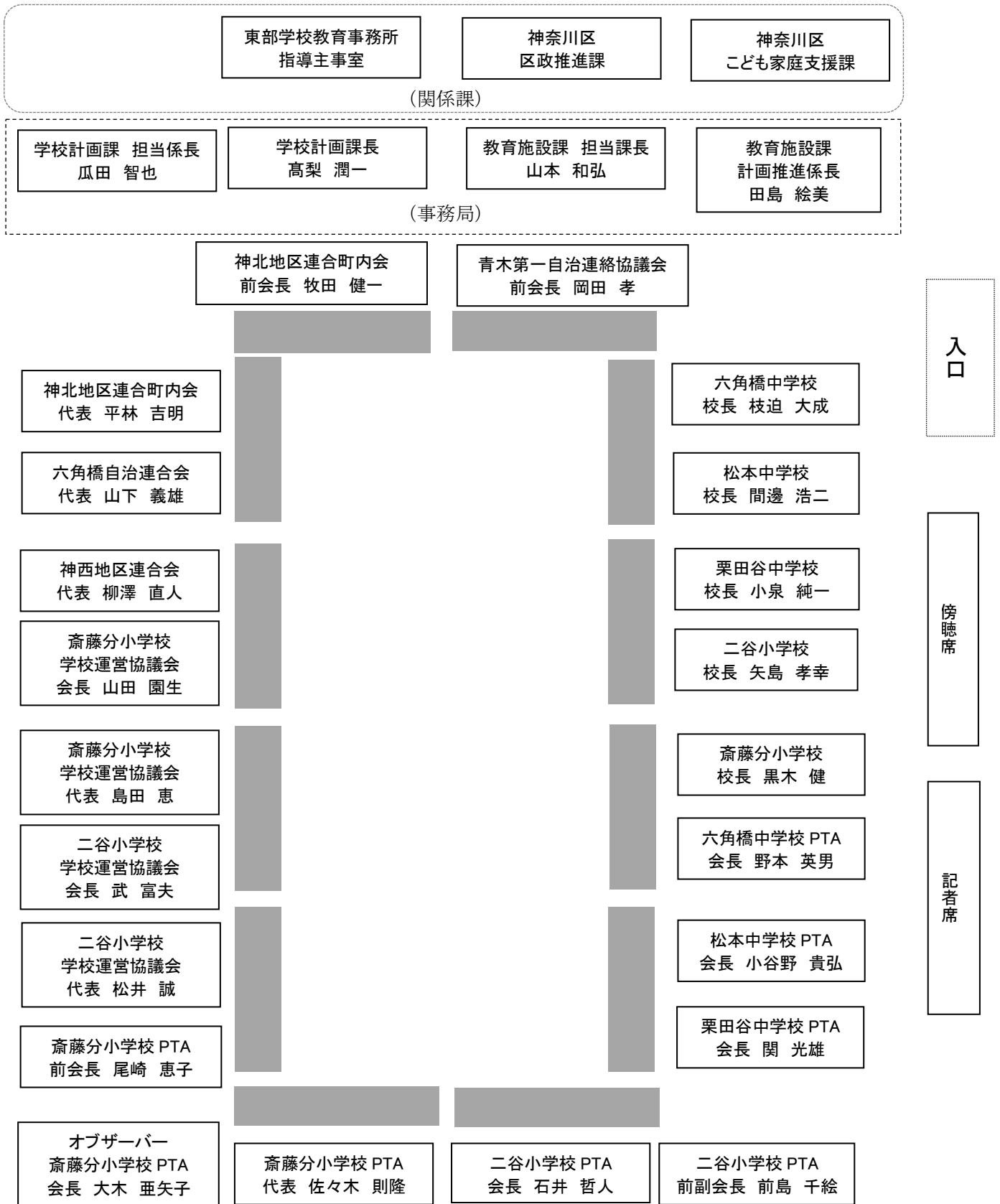
(敬称略)

分野	氏名	所属・役職等
地域関係者	牧田 健一	神北地区連合町内会 前会長
	平林 吉明	神北地区連合町内会 代表
	山下 義雄	六角橋自治連合会 代表
	柳澤 直人	神西地区連合会 代表
	岡田 孝	青木第一自治連絡協議会 前会長
	山田 園生	齋藤分小学校学校運営協議会 会長
	島田 恵	齋藤分小学校学校運営協議会 代表
	武 富夫	二谷小学校学校運営協議会 会長
	松井 誠	二谷小学校学校運営協議会 代表
PTA代表者	尾崎 恵子	齋藤分小学校PTA 前会長
	佐々木 則隆	齋藤分小学校PTA 代表
	石井 哲人	二谷小学校PTA 会長
	前島 千絵	二谷小学校PTA 前副会長
	関 光雄	栗田谷中学校PTA 会長
	小谷野 貴弘	松本中学校PTA 会長
	野本 英男	六角橋中学校PTA 会長
学校関係者	黒木 健	齋藤分小学校 校長
	矢島 孝幸	二谷小学校 校長
	小泉 純一	栗田谷中学校 校長
	間邊 浩二	松本中学校 校長
	枝迫 大成	六角橋中学校 校長

分野	氏名	所属・役職等
事務局	高梨 潤一	教育委員会事務局 学校計画課長
	瓜田 智也	教育委員会事務局 学校計画課 担当係長
	若尾 弘信	教育委員会事務局 学校計画課
	福田 達彦	教育委員会事務局 学校計画課
	板垣 貴人	教育委員会事務局 学校計画課
	山本 和弘	教育委員会事務局 教育施設課 担当課長
	田島 絵美	教育委員会事務局 教育施設課 計画推進係長
	小倉 史絵	教育委員会事務局 教育施設課 計画推進係
分野	氏名	所属・役職等
関係課	横山 康孝	教育委員会事務局 東部学校教育事務所 指導主事室長
	佐藤 玉青	神奈川区 区政推進課 まちづくり調整担当係長
	奥村 晃一	神奈川区 こども家庭支援課 担当係長

第 3 回「齋藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会

席次表



## 第2号

# 「齋藤分小学校・二谷小学校」 建替えに伴う学校規模適正化等 検討部会 ニュース

発行日：令和4年5月23日（月）  
発行元：「齋藤分小学校・二谷小学校  
建替えに伴う学校規模適正化等検討部会  
（事務局：横浜市教育委員会事務局施設部）」

## はじめに

本市の学校建替事業は、平成29年5月に策定した「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」に基づき、取組を進めています。

今年度、二谷小学校は、最も古い校舎棟が築65年となり、目標耐用年数の築70年が目前に迫っているため建替えに向けた検討を行っています。また、同基本方針では、学校建替えに併せて学校統合も検討するとしているため、地域、保護者の代表及び学校長からなる検討部会を設置し、小規模校（一般学級の児童数189名・6学級／令和3年5月1日現在）となっている隣接の齋藤分小学校との学校統合も含めた検討をしております。令和4年3月29日に第2回検討部会を開催しましたので、部会での検討状況等について、両校の通学区域内にお住まいの皆さまや保護者の皆さまにお伝えします。

## 第2回検討部会

日時：令和4年3月29日（火）  
18時30分から  
会場：六角橋地域ケアプラザ  
2階 多目的ホール



## 第2回検討部会での決定事項など

- 第3回部会では、第2回部会の資料や委員の意見等を踏まえ、引き続き、学校統合の方向性について議論することになりました。

## ※会議の公開・非公開について

検討部会による協議の結果、第2回検討部会は公開で行われました。また、第3回検討部会についても公開とすることになりました。

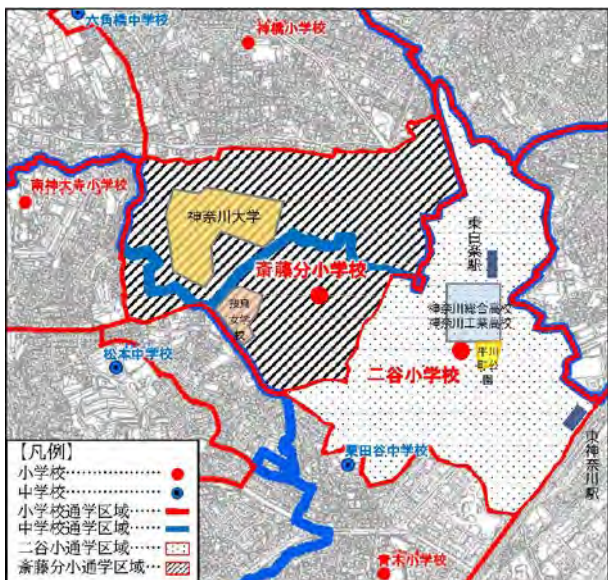
## 【建替えに伴う学校規模適正化等の検討について（議題）】

第2回部会資料は、部会において部会委員の皆さまに御検討いただくために事務局で検討、作成し、御提供したものととなりますので、内容については決定事項ではありません。  
なお、部会ニュースの作成にあたっては、紙面の都合上、一部を抜粋しています。

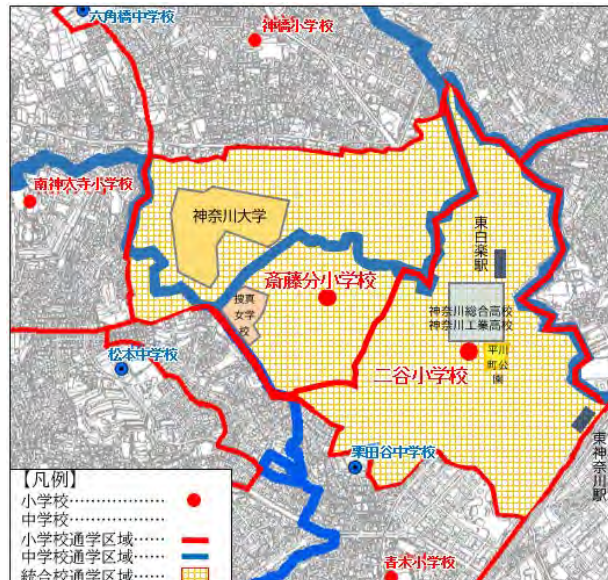
### 1 仮に統合になった場合の統合校の通学区域について

統合校の通学区域については、現在の齋藤分小学校と二谷小学校の通学区域を合わせた区域を想定しています。

#### (1) 現在の両校の通学区域



#### (2) 両校の通学区域をあわせた通学区域



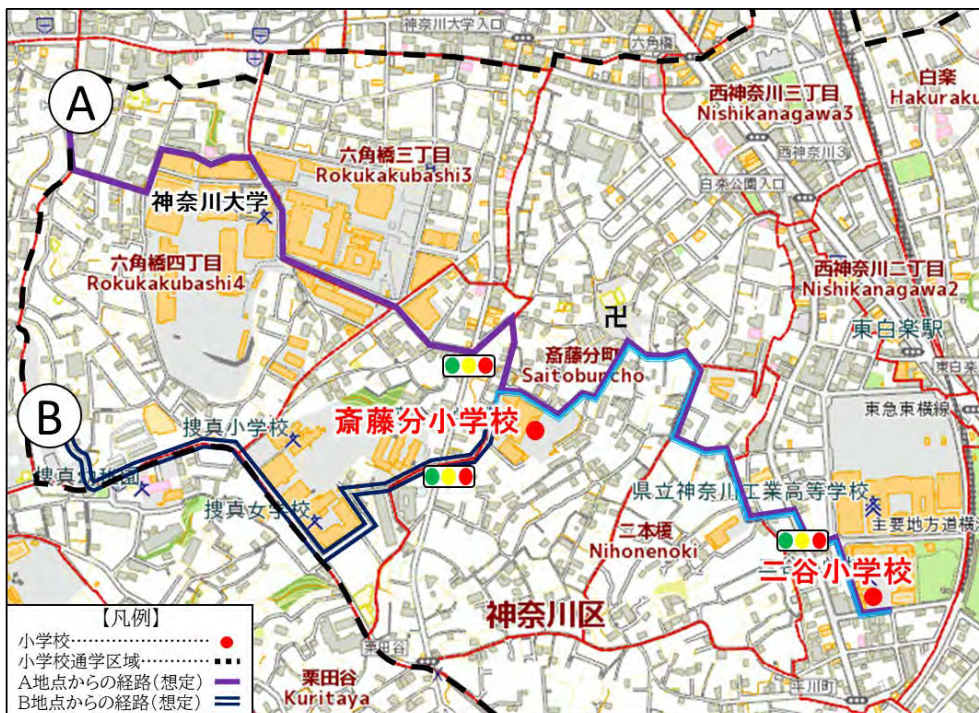


### (3) 両校の通学区域を合わせた際、二谷小学校までの距離が遠い地域から通学する場合

A・B地点から二谷小学校までの距離と時間(想定どおりの経路の場合)

		距離	時間※
A地点から	二谷小学校	約1.90km	約28分
B地点から		約1.70km	約25分

※徒歩 毎分67mで算出。端数切上



## 2 統合校からの距離が遠い地域について

### (1) 特別調整通学区域設定の検討 (部会での主な意見: ☆2, ☆15, ☆17, ☆18, ☆19)

両校の通学区域を合わせた際、二谷小学校までの距離が遠い神奈川大学の北側や西側の地域について、隣接する神橋小学校や南神大寺小学校との間で特別調整通学区域※の設定を部会で検討することも考えられます。

なお、特別調整通学区域設定の検討に当たっては、関係する学校や地域との調整を行います。

※特別調整通学区域: 区域内の保護者の方は、お子さんの就学・入学時に指定校と受入校のいずれかを希望により選択が可能です。選択にあたっては、特に必要な要件等はありません。

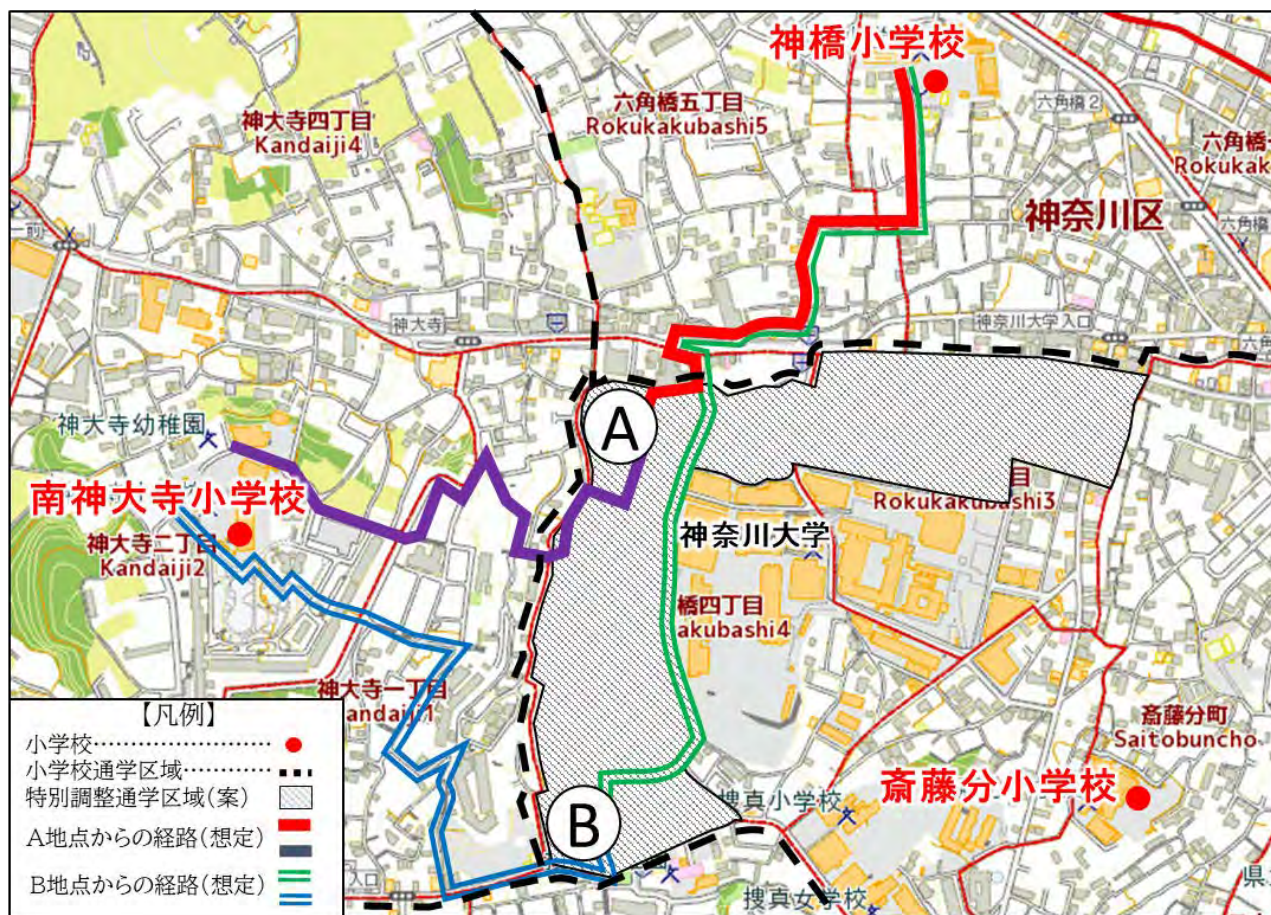
### (2) 仮に神奈川大学の北側及び西側の地域について、神橋小学校や南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定し、1(3)と同地点から各校まで通学する場合

A・B地点から神橋小学校、南神大寺小学校までの距離と時間(想定どおりの経路の場合)

		距離	時間※
A地点から	神橋小学校	約0.65km	約10分
	南神大寺小学校	約0.75km	約12分
B地点から	神橋小学校	約1.20km	約18分
	南神大寺小学校	約1.00km	約15分

※徒歩 毎分67mで算出。端数切上





### 3 学校統合を行わなかった場合の斎藤分小学校の改修工事等について(※現時点の想定)

#### (1) 実施する改修工事

児童等の安全等を図るため、学校運営に必要な保全改修を実施していきます。

なお、予算に限度があるため、市内にある小・中学校の施設点検等の結果を踏まえて、緊急性の高い学校施設から保全改修を行っています。

#### (2) 実施しない改修工事

斎藤分小学校は、学校運営に必要な保全改修を引き続き行いますが、「横浜市小・中学校の通学区域制度及び学校規模に関する基本方針」に掲げている小規模校の解消を推進する観点から、校舎等の構造躯体の長寿命化を図る改修(長寿命化改修※)は想定していません。そのため、本市学校の目標耐用年数 70 年を超えて、斎藤分小学校の学校施設を使用し続けることは想定していません。

※長寿命化改修とは…構造躯体の耐用年数を築 80 年などに延命させることを目的とした、外壁防水工事や内外装の更新工事、配管・設備等の更新工事などで、大規模な改修工事をいいます。

#### 《参考》学校統合を見送った場合について (部会での主な意見：☆4，☆5)

- ・斎藤分小学校は、再度、建物の寿命を迎える前(最古の棟：56年)に近隣の小学校との間で、相手校を使用校舎とする学校統合の検討が必要になります。
- ・二谷小学校との将来的な学校統合については、二谷小学校の建替えがすでに完了しているため、斎藤分小学校の児童を受け入れるには、校庭に校舎を増築する必要が生じるなど教育環境が悪化することが懸念されます。

## 4 学校統合に伴う閉校施設の後利用について

### (1) 後利用の検討について（部会での主な意見：☆16, ☆30～☆39）

用途廃止施設等の活用・処分に関する基本原則を定めた「横浜市資産活用基本方針（平成22年3月策定）」に基づき、検討を行います。検討にあたっては、地域課題やニーズ等を把握するとともに、立地特性や事業性を確認しながら、関係区も含めた関係部署が連携して活用策の策定を行います。

### (2) 後利用の状況

本市では、これまで（平成18年4月から令和3年4月まで）に学校統合等により、42校の小中学校を閉校し、19校を新たな統合校として活用しています。（小学校15校、中学校4校）残りの23校のうち13校の跡地については、福祉施設、公園、特別支援学校、病院、私立学校などに利活用しています。

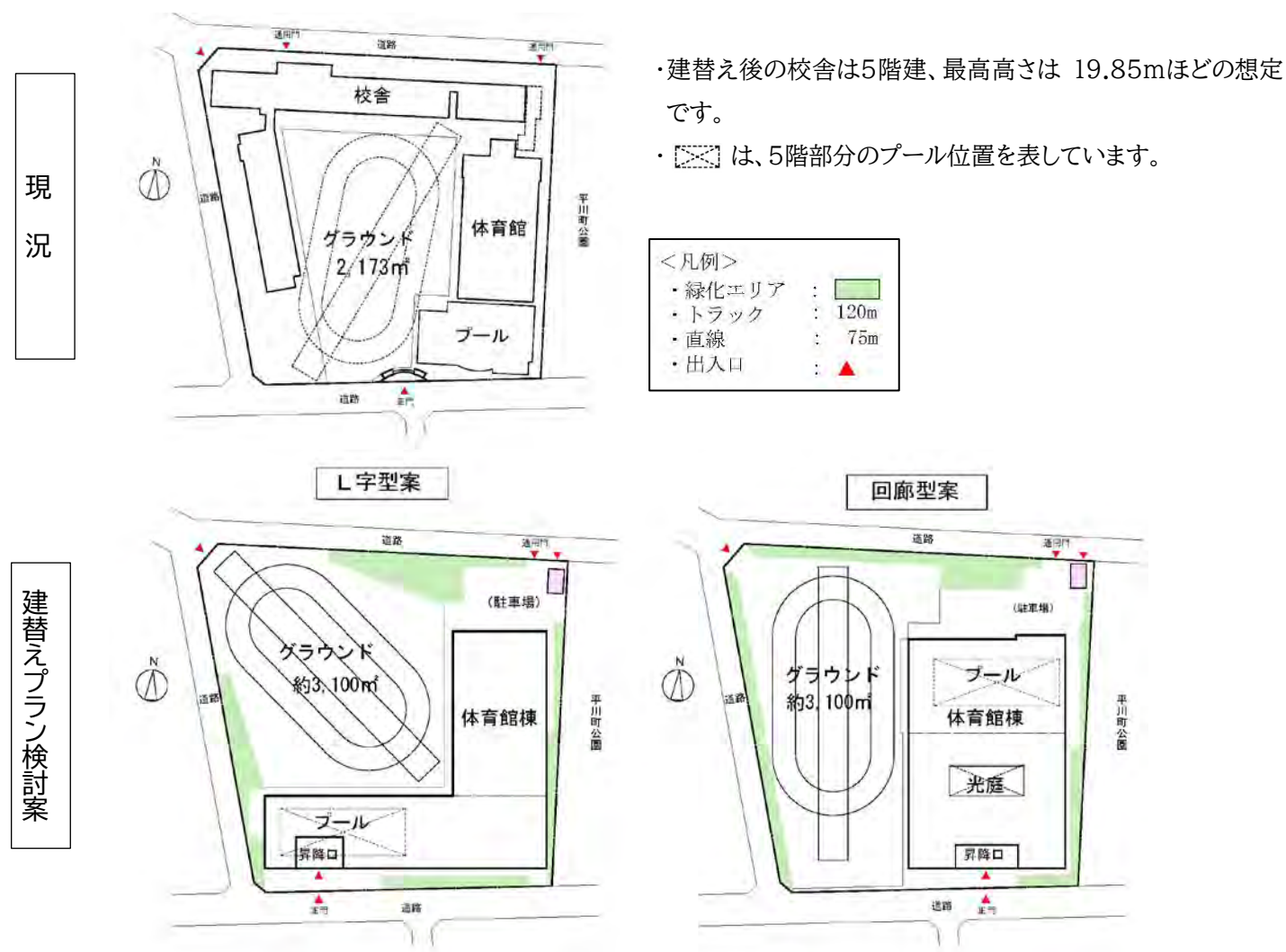
また、13校のうち6校の後利用施設について地域防災拠点に指定されています。

### (3) 後利用の事例

学校名	旧若葉台東小学校（旭区）	旧矢沢小学校（栄区）
閉校年	平成19年4月	平成18年4月
後利用	若葉台特別支援学校【平成25年1月開校】	矢沢なかよし公園【平成24年1月開園】
	地域防災拠点	上郷矢沢コミュニティハウス【平成25年3月開所】

### （参考）仮に学校統合した場合の建替えプラン検討案について

※この資料は、参考資料であり、今後の設計等で変更する可能性があります。





**【第1回検討部会以降に寄せられた意見及び質問等】（凡例 ◆：意見・質問 ⇒：回答）**

第1回部会から第2回部会(令和4年3月29日)までに寄せられた御意見・御質問が8件ありました。

◆第1回検討部会ニュースでは、統合校開校は令和10年と記載されていますが、保護者説明会では令和10年に工事完了、統合校開校は令和11年度以降と説明があったと思います。どちらが正しいのでしょうか。  
⇒スケジュールについては、あくまでも想定として御説明しており、保護者説明会でも統合校開校は令和10年度以降と説明しています。

◆利己主義に基づく統合廃止を求める声ばかりではないでしょうか。子どもの数が半分になったのに、なぜ同じ数の学校が必要なのでしょう。今、メリハリのある財政支出をしないと、将来困るのはまさに小学校に通っている子どもたちです。一時的には建替え費用がかさむでしょうが、長期的には教育財源を生み出せるはずで、合理的な判断に基づき、政策を毅然と推進していただくことを強く望みます。

◆建替えを行う場合、隣接する平川町公園の一部分のみを、小学校の新校舎に使わせていただくことを検討いただけませんか。平川町公園の一部に新校舎を建てるならば、建替えに賛成ですが、現在の体育館の場所に新校舎を建て、体育館や校庭が使えなくなるならば、建替えには断固、大反対です。現在、二谷小学校に通う子どもにとっては、建替えにデメリットしかないためです。説明会で説明された建替えのメリットは、斎藤分小学校の建替え後の将来の小学生のみが得られるメリットです。将来の斎藤分小学校のメリットのために、「現在の」二谷小学校の児童が教育環境の悪化を強いられるというのは、おかしいのではないかと思います。

⇒平川町公園の一部に新設校舎等を建設できた場合は、工事中の学校運営への影響は大幅に減り、グラウンドもより広くなるなど、建替え後の教育環境は大変良好になることは考えられます。一方で、公園利用をされている方も多くおりますので、地元の御理解をいただくことが不可欠と考えております。

つきましては、いただいた御意見を平川町公園の管理者や利用団体等にお伝えし、関係者とともに検討していきます。また、二谷小学校の建替工事中は、グラウンドが一時的に利用できなくなることが想定されますが、できるだけ利用できるよう工事工程を工夫していくことや、近隣のグラウンドを必要に応じて借りていくなど検討します。

◆第1回部会ニュースに、検討部会において通学区域についても検討するとの記述がありましたが、是非検討してほしいです。また、想定スケジュールでは令和10年度以降に統合校開校とありますが、そのタイミングで斎藤分小学校の全児童が二谷小学校に通うことになるのでしょうか。高学年になれば子どもたちの関係性もできあがってくるため、できれば最初から近隣の小学校を選べるようにしてほしいです。

⇒統合校開校後は、在校生全員が二谷小学校に通うことになります。



◆六角橋という住所でも、神橋小学校と斎藤分小学校に学区が分かれているのはなぜでしょうか。隣の学校では斎藤分小学校よりも子ども達の人数が多い学校もあります。斎藤分小学校を存続させるのであれば、通学区域の変更も一つの手だと思います。また、検討部会の相手校が二谷小学校となっていますが、神橋小学校ではないのでしょうか。

⇒横浜市全体でみれば、地名は同じでも学区が異なっているところには他にもあります。自治会の区域線や線路、道路等によって学区が区分されていることが理由の一つです。また、斎藤分小学校は旧六角橋中学校跡に設置されていた、二谷小学校と神橋小学校のそれぞれ斎藤分分校が独立し開校した学校です。

◆場所がどこになったとしても二校の統合に賛成です。小規模校はメリットよりデメリットの方が大きいのではないかと感じています。6年間を1、2クラスで過ごすことは、子どもにとっていい影響があるとは思えません。狭い社会の中、中学、高校に入ってから新しい友人と新たな関係を築いていく能力が育つのかも疑問です。学校が廃校になるのは残念ですが、横浜市の税金が使われている点で、少ない児童数の学校を近い距離で何校も残しておくのはどうかと思います。反対意見を述べるのも大切だとは思いますが、現在決まっている開校の時期を遅らせないことも子どもたちにとっては重要なことだと思います。

◆私は統合には賛成です。クラス数が少ない中で人間関係が固定されるというのは、少し怖い気持ちがあります。また、固定された人間関係に関しては、いじめがあった場合にも、仲間意識が高くなり、教師が注意しにくい雰囲気も生まれやすいのではないかと思います。小規模校では子どもたちも、中学、高校、大学に進んでから、多様な価値観に触れ合うことができず、井の中の蛙のような環境が生まれやすい気がしています。子どもたちが、楽しく学べる環境が1番なのであって、通学に伴う物理的な距離などは、具体的にどうすれば解決できるか前向きに検討すべきと考えています。廃校が残念と思うのは大人であって、実際に通う子どもたちにとってはそれほど大きなことではないのではないのでしょうか。この議論が長引いて、工事の着工が遅れるのは最も良くないと考えています。建替えが早ければ現在の段階で予想されている課題も対策をたてることができます。統合されて何年か後に通う子どもたちにとっては、一刻も早く学校統合に踏み切るべきだと考えています。

◆今回の「斎藤分小学校」を「二谷小学校」と統合して斎藤分小学校を廃止するという横浜市の提案に驚きました。今の小学生は重いランドセルを背負って交通量の多い道路を毎日通学しなければなりません。斎藤分小学校の通学区域から二谷小学校に通う事を想像しただけで、子どもたちの不安を想像すると涙が出てきます。横浜市はそんな苦行にも似た行いを小さくて弱い子どもたちにさせるのかと疑問と怒りが湧いてきます。どうか斎藤分小学校を残して、二谷小学校は老朽化に伴う建替えを進めてください。

※ お寄せいただいた御意見等は、全て検討部会にて報告しています。なお、紙面の都合上抜粋して掲載しています。

**【部会における主な発言や質問】**（凡例 ☆：委員からの主な発言 ⇒：事務局からの説明・回答）

☆1 平川町公園の一部の利用の御提案を受けて、公園利用の将来性という別問題もありますが、今回の学校建替えに焦点を絞り、二谷小学校の長い歴史も含めてより良い環境にするため、一つ一つ検討しています。

☆2 六角橋南町内会では、近隣町内会とともにアンケート調査を実施し、統合には現状賛成できないという意見をまとめています。また、二谷小学校まで小学生が通うルートや距離、時間等について実際に歩き、調査を行った結果、片道で2kmを超えることはないですが、距離ではなく高低差が大きい点が問題だと考えています。

☆3 現在斎藤分小学校は小規模校ですが、いつから小規模校なのでしょう。

⇒平成14年から小規模校の状態が続いています。

☆4 斎藤分小学校は小規模校のため、建替えをしないとの説明でしたが、今回、二谷小学校と統合しないという結論が出た場合でも、校舎の建替えは行わないのでしょうか。

⇒基本的に、小規模校は建替えを見送る旨を、「横浜市立小・中学校施設の建替えに関する基本方針」で定めております。

☆5 仮に統合しないとなった場合、斎藤分小学校は出来る限り現在の校舎を使用し、使用不可になった場合にはそれまでであり、その後建替えを実施することはないということでしょうか。

⇒そのような方針で進めています。

☆6 斎藤分小学校は、少人数で適正規模ではないという意見もありますが、1クラスと2クラスでは大きく違うのでしょうか。少人数の学校にそこまでデメリットがあるのでしょうか。先生方にきちんとやっていただければ、大きな影響はないと思います。

☆7 最古の棟が築65年ということですが、校舎の一番端の体育館の前の校舎でしょうか。そこは普段どのように使用しているのでしょうか。また、隣の校舎とはつながっているのでしょうか。

⇒最古の棟ですが、体育館の前の2階建ての校舎が一番古く、現在、多目的室、会議室、印刷室、トイレがあり、隣の校舎とは廊下でつながっております。

☆8 第1回部会ニュースの中に、新しい学校の整備水準等に関するページがありますが、キッズクラブの教室の整備水準がすべて適宜とされているのは、キッズクラブの利用者数に応じて教室数が決まると捉えていますが、どうでしょうか。

⇒建替校の場合、キッズクラブとしておおむね2教室分を整備することが多いですが、人数等によってはそれより減らす可能性もあるため、具体的に何教室とは記載していません。

☆9 利用者が減った場合、キッズクラブの教室数を減らすということでしょうか。

⇒1教室+αという形になりますが、教室を整備しております。

☆10 現在の斎藤分小学校は小規模で児童数も少ない学校ですが、キッズクラブの利用者が多いため、学校から2教室使わせていただいています。統合となった場合、現在の3倍近い児童がキッズクラブを利用することになれば、運営に十分な教室を確保することができるのでしょうか。

⇒キッズクラブについては、建替校ではおおむね2教室を整備しています。ただ、2教室では足りない場合もあるため、キッズクラブと多目的室を近いところに配置し、学校運営上問題がなければ多目的室もキッズクラブとして使用するという対応を行っています。

☆11 多目的室というのは、第1回部会ニュースに記載された整備水準の資料の11から14ということでしょうか。  
⇒多目的室のうち、水廻り学習等や集会・発表等については特定の目的のため使用しており、少人数指導や学校指定が使われることが多いです。

☆12 斎藤分小学校の関係の方もいらっしゃいますが、これまで出てきた内容は不安に思う方も多いと思います。  
そのため、性急に話を決めず、様々な議論を尽くしていただきたいと考えています。

☆13 斎藤分小学校学校運営協議会では、統合に反対との意見が出ています。その主な理由としては、先進国では少人数で教育をしている実情があり、文部科学省も1クラスの人数を減らす動きをしています。現在の基本方針では、斎藤分小学校は小規模校ですが、将来、適正規模校になる可能性もあります。また、前回見学させていただいた箕輪小学校は、学校の規模が大きすぎるため、教員の目が届かない可能性や、キッズクラブの課題もあります。校舎を新しくすることは魅力的ですが、児童にとって一番良いことは、児童一人ひとりに寄り添ってくれる質の高い教員を教育委員会に選んでいただくことだと思います。

また、キッズクラブの問題ですが、斎藤分小学校にキッズクラブを設置する際の説明会で、横浜市こども青少年局より、2教室を確保する旨の説明があったと記憶しています。2教室を確保した上で、人数が多い場合には、新たに教室を整備すると考えるのであれば理解できますが、人数が多い場合、1教室+ $\alpha$ との説明では、市と教育委員会の説明に整合性がないと思います。

さらに、資料では、教育委員会が策定した基本方針に基づき、校舎の目標耐用年数を過ぎた場合、建替えは行わず、廃校となり困るのは地域だと捉えられる書き方をしているように思います。昨年の説明会ではその説明がされず、文章でこのような説明が出ると、地域や保護者が脅されているように感じます。これが事実であっても、表現の仕方を工夫していただきたいです。前回も申し上げましたが、実施したアンケートの御意見は反対がはるかに多いですが、それに対して凛とした回答ができる状況にならなければ、統合に賛成できない状況です。

☆14 今回の検討の発端は、二谷小学校の校舎の老朽化に伴う建替えです。いつ大規模地震が起きるかわからない状況のため、早急に建替えを行っていただきたいと思います。もし、皆さんが賛成し、統合となれば、二谷小学校の名前がなくなることも仕方ないと思います。ですが、そうなるまでに議論を尽くすべきだと考えています。

☆15 斎藤分小学校PTAでは委員の皆様の協力のもと、子どもたちに実際に自宅から二谷小学校まで歩いていただき、その感想をまとめました。その中には、通学時間が延びること、夏場の暑い中、高低差のある通学路を通わなければいけないこと、通学路が延びることで事故に遭うかもしれないなどの御意見がありました。その他、神奈川大学と通学時間が重なると、かなりの人数が同じ道を通ることになり心配だという意見もありました。

また、資料にある特別調整通学区域の設定についても保護者の観点では、1つの町内会に3つの学区が設定されていると、スクールゾーン対策協議会や子ども会のことで、新たな問題も発生すると思います。3つの小学校に校外委員をつくることは、町内会長や保護者などの負担が大きいと考えています。

☆16 学校統合に伴う閉校施設の後利用ですが、地域防災拠点やコミュニティハウスになった場合、近隣の地域住民による管理ではなく、きちんとした団体によって管理していただけますでしょうか。

⇒資料では、旧若葉台東小学校の事例を御紹介しましたが、ここは特別支援学校が管理者として施設を管理しています。その他、地域防災拠点に指定されている6箇所の後利用施設も、それぞれ学校や教育委員会の別用途などで使用し、管理したうえで、現在と同様に地域防災拠点を地域の方々に使っていただいています。



☆17 二谷小までの通学路について、事務局からA地点及びB地点からの距離と時間について説明がありました。その中間地点が一番遠いと思いました。そこから来年度の新1年生と歩きましたが、40分程度かかりました。また、坂道の多い通学路を持ち物が多い中で通う場合、転倒などの危険があると思います。

☆18 特別調整通学区域については、具体的には二谷小と南神大寺小、神橋小の3校から選べるのでしょうか。  
⇒3校選べる地域、あるいは神橋小のみ、南神大寺小のみ選択できる地域にすることも可能です。今回は事務局の案として、資料で示した地域を特別調整通学区域に設定すると、どの程度の距離になるかを参考に示しています。そのため、今回の地域が必ず特別調整通学区域に設定されるものではなく、設定するのであれば、対象範囲の拡大や縮小が可能です。

☆19 特別調整通学区域については、六角橋南町内会は六角橋三丁目と四丁目で構成しており、同じ町内会で学校が3つに分かれることは町内会として受け入れ難いのではないかと思います。とはいえ、全員が神橋小に通うことも難しいため、地域住民の意見をまとめることが困難になります。

☆20 保護者から意見を預かっています。まず1点目は、保護者説明会終了後、保護者の方が事務局に問い合わせた際、斎藤分小学校は令和11年3月末まで存続するとの回答であったと聞いています。しかし、前回の部会ニュースでは、統合校開校は令和10年度となっています。寄せられた意見への回答の中で、前回の説明は間違いだったかもしれないとありましたが、間違いであれば訂正をしていただき、現時点での明確なスケジュールを丁寧に説明していただきたいとのことです。(⇒現時点では、令和10年度の統合校開校を想定しています。)

2点目は前回の資料にもありましたが、関係校交流は、特別調整通学区域の3校が対象でしょうか。関係校はどこまでの範囲か教えていただきたいとのことです。

⇒関係校交流に関しては、仮に統合という話になれば、統合校として交流するということになります。神橋小や南神大寺小とは交流しないわけではありませんが、関係校交流とは様々なイベントを子どもたちが行いながら、統合前に交流していくというもので、その点については神橋小と南神大寺小は行わないと思います。

☆21 二谷小学校の保護者にアンケートを取りました。校舎の建替えについては、9割近くの方が概ね賛成です。また、統合については、どちらでもないという意見が一番多いです。統合後の学校名については、新しい校名とするパターン、どちらかを残すパターン、2つの学校名を繋げるパターンが、それぞれ3分の1ずつとなりました。

☆22 二谷小学校の老朽化による建替えに伴い、部会を立ち上げることになったと思いますが、二谷小学校としては、子どもたちの安全や教育環境として、校舎の建物としての安全を高めるという為に、建替えをしていただきたいと思います。15年後、やはり統合ということになったその時点で斎藤分小学校の建替えができないことが現時点で予想されるのであれば、通学距離や通学路の問題について、しっかり検討する必要があると思います。そのうえで、その不安をできるだけ少なくし、全員が納得とはならないと思いますが、妥協点を見つけて、15年後に広い校庭に増築をしない形にしたいと思っています。

☆23 現時点で仮に予算に余裕があり、斎藤分小学校を建替える場合、校舎は建替えが可能でしょうか。周りの狭さや高さ制限などを考えた際に、現時点では、建替えが可能でしょうか。

⇒斎藤分小学校への入口が事実上一本しかないため、施工が非常に難しい学校です。資材の搬出入も同じ道を通るため施工が非常に難しく、建替えは事実上、無理ではないかと考えています。長寿命化の方向であれば、表面を色々に対応することは不可能ではないと思いますが、一から建替えることは極めて難しいと考えています。

☆24 保護者から様々な御意見をいただいた中で、現在コロナ禍で子どもたちが普通に生活することができず、我慢する機会が増えていますが、今後、建替工事を行う際に、今度は建替えを理由にさらに子どもたちが我慢を強いられることがないようにしてほしいという意見が私の目に留まりました。その点はしっかりと対応していただきたいと思います。

☆25 悔いの残らないよう、メリットやデメリットを丁寧に検討し、当初書かれていた、どちらにも解釈できるものではなく、年数や面積といった事実に基づいてしっかり判断していただきたいと思います。

☆26 学校は、先生と児童だけで成り立っているわけではありません。保護者、それから地域住民の方も含めて、学校地域全体の中で、学校の存在が位置づけられていると私は認識しています。学校と地域との間で、これまで育んできたものをどのように継承していくかを同時に考える必要があるのではないかと思います。

また、小規模校の学校運営についてですが、学校長として小規模校をマネジメントしている中で、小さな学校にはたくさんのメリットがあると承知しています。まず、横浜市教育委員会の中でも最大の課題としている「いじめの未然防止」。これが小規模校では、細かいところまで目が行きやすいと思います。前任校では入学式や卒業式も1年生の入学式は2年生から6年生の全員が参加し、6年生の卒業式は1年生から5年生全員が参加して、全校児童で祝うところに一体感が生まれる良さがあります。私個人としては、小規模校の良さは多分にあると思いますので、メリット・デメリットは個人の感じ方の違いはありますが、私は前任校を含めて7年間、小規模校の校長をやらせていただいた中で、それらを感じながら日々仕事をしております。

☆27 小規模校には小規模のメリットもデメリットもあると思います。中規模校では中規模の良さがありました。ただ、小規模校ほど一人ひとりに目が届いていないという事実もあると思います。私も職員も皆一人ひとり大切にしようという思いは一緒ですが、そういった一面はあると思います。ただ、校長として学校運営という面では、子供たちの安全安心、どの学校でも不変なものだと思います。

もう一つは、今回二谷小学校は、建替えがありますが、新しい校舎での教育環境の良さは、必ずメリットとして生まれてくると感じています。建替工事期間のデメリットを少しでも少なくし、新校舎になって、よりよい教育環境のもとで子どもたちが学べることは、非常にありがたいことだと思っています。

☆28 私の連合会には3つの小学校の通学区域があり、二谷小学校、青木小学校、三ツ沢小学校とそれぞれ違いがあります。学校ごとに考え方や保護者の人たちも違います。委員の皆さまも、子どもたちのために検討していただいていると思います。子どもたちが健やかに育つことが一番ですので、子どもたちのことを大事に考え、今後、二谷小学校がよりよい学校になるよう一つよろしく願います。

☆29 まず考えなくてはいけないのは、子どもたちの将来であり、良い環境の中で、安全で和やかに健やかに過ごせる環境を作ることは、どの学校でも同じだと思います。それが統合になるのか、今の状態でいくのか、今の状態でいったときに斎藤分小学校の校舎が、後何年使用できるのかはわかりませんが、そのような話は出てくるのではないかと感じています。しかし、統合という話になれば、子どもたちのことを考えて安全性、通学にかかる時間等、ランドセルに背負われている一年生のような子どもたちが30分歩けるのかといったことも感じています。一方で、良い環境で、新校舎というのも良いことだと思っています。私は本当に委員の皆さまが、是非子どもたちのことを考えて、将来を見据えてどちらにしていけばいいか、どちらかが正解ということは絶対にありませんから、何とか、妥協点を見つけていかなければいけないと思っています。

☆30 跡地の計画に責任を持っていただけるのはどちらの部署ですか。

⇒財政局の資産経営課が、「横浜市資産活用基本方針」を定めていますので、そちらが所管になります。そこが音頭をとって、各局・区を含めて横断的に検討を進めていきます。また、その学校に入っている機能などによって異なりますが、例えば地域防災拠点の場合、総務局の危機管理室、そして区役所の総務課等。コミュニティハウスがある学校の場合は市民局など、関連する部署が入り検討します。それぞれの役割がありますので、教育委員会が前面に立つことは難しいですが、その経過については教育委員会もしっかりと入っていきます。

☆31 地域要望を具体的に伝えるのは施設部ですか。

⇒地域要望についてはこれから検討となりますが、区役所が行っています。直近の事例では、菅田小学校と池上小学校が統合し菅田の丘小学校という新しい統合校が開校しましたが、菅田小学校の後利用を考える検討委員会を区が立ち上げ、地域の方に入っていただき意見を伺う場を作りました。その場合も、教育委員会も参加しています。区の担当部署は、それぞれの区によって異なりますが、菅田の丘小学校については区政推進課が担っています。

☆32 過去の事例では、後利用が決まるまで大体どれくらい期間がかかりますか。

⇒それぞれの学校で異なるため、一概にはお答えできません。検討を始める時期は、菅田の丘小学校は閉校する少し前に検討委員会を立ち上げた形ですが、閉校後に検討を始める事例が多いです。その後、地域のニーズを聞き、その後に検討し2、3年程で決まった事例もあります。また、市街化調整区域で、その後の建物の建設が難しい場所では、後利用が決まるまで時間がかかる場合もあります。そのため、その場所によって検討にかかる期間は異なります。

☆33 後利用検討委員会は、どれぐらいの頻度で開催していますか。

⇒今回の検討部会と同様に、多くが半年から1年程度、回数が5回前後、菅田の丘小学校の場合には検討していただきました。

☆34 菅田の丘小学校の場合、後利用検討委員会が開催されて、その結果まだ後利用は決まってないのですか。

⇒検討委員会にて要望をまとめていただき、その後に検討するため、要望がまとまってすぐに後利用が決まるという形ではないということと、菅田の丘小学校の場合は池上小学校を建替えている間、菅田の丘小学校に児童が通っているため、時間がかかるという面もあると思います。

☆35 区政推進課は、地域の要望を吸い上げるところまでで止まってしまい、その後具体的にどうなるかは検討委員会が関係なくなるということですか。その後は、市役所が検討するということですか。

⇒地域の要望をまとめて要望書または意見書という形で出していただき、その要望をもとに、行政で要望を尊重しながら後利用を検討する形です。全く検討状況を伝えないというわけではなく、その検討の経過や、検討が進んだ場合については、また地域へ御説明する形を取ると思います。

☆36 地域の要望通りに行かなかった事例はありますか。こういう要望書を出したが、実際には全く異なる使い方をしている事例はあるのですか。

⇒全く異なるということはないとは思いますが、全ての要望が受け入れられるかどうかは事例によると思います。ただ、要望を受け入れられる部分と、様々な要因から受け入れがたい部分など、後利用の使い方によって異なると思います。



☆37 地域の要望が通らなかったところがあるのであれば、資料で出してもらいたいです。

⇒どのような要望が出て、どのような後利用になったかというものを、できる限り集めて示させていただくことは可能だと思います。

☆38 地域への要望がこの部分がこの程度叶いませんという点も、決定する前にフィードバックしていただけるのでしょうか。

⇒勝手に後利用を決めるということではなく、それぞれで、しっかり地域には御説明した上で進めていると思います。

☆39 区役所は、しっかりとフィードバックしていますか。こういう経過をたどることがはっきりとわかるものを出してください。

⇒承知しました。

☆40 教育委員会は各団体からの意見に対して、不安を取り除いたうえで、次回の検討部会に臨まない、結局は、地域や保護者が不安に感じていると報告するだけになってしまうので、その不安を取り除くものが何かをある程度この場で決めた方がいいと思います。斎藤分小学校側が不安に思っている、統合を伴う斎藤分小学校の閉校に反対という意見が主流であるということは、二谷小学校の保護者は皆わかっています。説明会のときに事務局からの説明が足りなかったのであれば、再度説明会を行い、説明は教育委員会からするとことが良いのではないのでしょうか。

☆41 説明会の際の説明に不足があったため、教育委員会が再度説明会を開いたらいいのではないかという御提案は反対します。今後の方向性、例えば統廃合が決まりましたので、今後のスケジュールはこうなりましたと、決まった後に説明会を開催するのであれば賛成です。しかし、それをこのタイミングで確定のように、わざわざ説明会を開くことには反対します。

☆42 本日、統合の方向や、反対や賛成だという話にはなりません、最終的には決めなければいけないことだと思います。そのため議論を長引かせず、委員の皆さまの御努力、また御協力いただき、どちらがいいか皆さまも本当に迷っていると思いますが、少しでも話が前に進むように、子どもたちのことを一番に皆さまに是非考えていただきたいと思っています。

### ◆第3回検討部会について

※会議は公開で行います。傍聴希望の方は、下記ホームページに掲載の会議案内を御確認ください。

- ・日時：令和4年7月4日(月) 18時30分から
- ・会場：神奈川公会堂 2階 第1会議室
- ・検討内容：建替えに伴う学校規模適正化等について



### ◆「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等検討部会の経過等について

部会の会議案内や会議録、ニュースについては、ホームページからも御覧になれます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/tekiseika/shokibo/saitobunfutatsuya.html>



### ◆事務局（お問い合わせ先）

皆さまからの御意見や御質問を受け付けております。Eメール、電話またはFAXでお寄せ下さい。

横浜市教育委員会事務局施設部

Eメール:kyo-kanagawa2021@city.yokohama.jp TEL:045-671-3252 FAX:045-651-1417



## 事務局に寄せられた御意見等一覧

## 【1件目】(Eメールによる御意見)

二谷小学校で子ども2人がお世話になった保護者OBです。

統廃合＝斎藤分小学校廃校に危惧を感じています。斎藤分小学校関係者、地域の合意がないもとの強行には反対です。

二谷小学校にはそもそも統合の必要性がありません。斎藤分小の廃校強行が地元の反対で進まず、そのあおりで二谷小学校建替え実施が遅れないようにしてほしいです。二谷小の地元や教育関係者の意見を反映した建て替えを期待します。

地域にとって学校は宝物です。市教委のニュースでは小規模校の利点や課題が紹介されていますが、学校関係者の意見では「斎藤分小には指摘されている『課題』は存在しない」です。教職員と児童、保護者、地域の方々などのご努力のたまものだと思います。だったら教育的には斎藤分小学校には利点しかありません。そんな学校を残してほしいというのが「利己主義」「感情論」ではありません。少子化の進行や、市の財政的制約があるのは分かりますが、大事なものを目先の財政的理由で失うことになりかねません。必要な教育予算を確保し、子どもと地域のために税金を使うのが教育委員会の本来の役割ではないでしょうか。

斎藤分小はそんなに小規模でもありません。少人数学級は国も必要性を認めています。1学年30人以上いるのだったら各学年2クラスに分割すれば教育環境もさらによくなり、担任の先生の負担も減ります。「小規模校をなくす」という市の方針そのものがまちがっていませんか。少なくとも柔軟な方針運用をして、小規模でがんばっている小学校を応援してほしい。小学校をなくして少子化が加速、税収減収という悪循環でなく、魅力ある学校を発展させ、子どもにも地域にもより明るい未来をめざすべきだと思います。

## 【事務局からの回答】

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、今後開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 【2件目】(Eメールによる御意見)

表題の件でお願いがありご連絡させていただきました。

まだ“決定”ではない旨、重々承知しておりますが、居ても立っても居られなく、恐縮ですがご連絡させていただいたこと、どうかご容赦ください下されませ。

暫定の特別調整通学区域に、我が家の前の道路を境に入っておらず、不安を覚えました。その理由は、統合するとされている年に5年生になる次男と1年生に入学する長女がおりまして、二谷小になったとしても、3丁目は全員六角橋中学校の学区になるため、小学校のお友達で六角橋中学校に行くのはわずか数人かと思われまます。

神大のエリアを抜かし、3丁目で六角橋中学校の学区なのに特別調整通学区域に入っていないのは私の家付近の一角のみとなります。町内会も入っており、近所のお友達(3丁目内)はうち以外みんな選択でき、ほぼ、神橋小学校→六角橋中学校と予想出来ますので、同じ町内で通学区域選択可否を分けないでいただきたいと存じます。

ちなみに長男は現在斎藤分小学校1年生なので、当該年は中学1年生となります。もちろん六角橋中学校です。六角橋中学校の地域は皆平等に神橋小も選択出来るようにしていただけますと幸いです。あまりにも子供達がかわいそうで、同じ3丁目なのに非常に不平等に感じました。

中学校を見据えた範囲再検討を何卒よろしくお願い致します。

## 【事務局からの回答】

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、7月4日に開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

また、通学区域の検討につきましても、六角橋南町内会全域を対象とする案なども含めて検討させていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



### 【3件目】（電話による御意見）

ニュースの2号を見ての意見を伝えたい。2点ある。仮に統合となった場合、紙面上1と2についてだが、A地点やB地点から二谷小までの距離は遠いと思う。神橋小や南神大寺小への通学を認めるようにしてほしい。斎藤分小のPTAの方が27分という地図の道を歩いたそうだが、実際には40分かかったそうだ。うちの子（小1？）は斎藤分小に通うとき、片道25分かかっている。また、神大生の通学の流れにさからって進まなくてはならず、歩道を大学生が歩いていると、子どもの方が車道側に降りているのが現状だ。心配で親がついて登下校している。ただ、これが二谷小となると片道40分かかる。往復で1時間を超えてしまう。うちは共働きで、働いている親にとってこの時間の違いはとても大きい。現在、斎藤分小には登校班はなく、二谷小があるのかは分からないが、親もついて登校となるは難しい。祖父母に頼むことも考えたが、80歳を超える祖父母に毎日頼むことも難しい。神橋小であれば片道10分というのは大きい。ぜひ、選べる地域を設定してもらいたい。

次に、仮に統合して選べる地域が設定されたとき、上の子（既に入学している子）はその選べる地域で学校を選択できるようになるのか。下の子はこれから入学なので選択できると思うが、上の子は既に斎藤分小に通っているので二谷小ということになってしまう。上の子と下の子で違う学校になってしまうのも困ってしまう。可能かどうか分からないが、選べる地域を設定した場合には、既に入学している子も下の子に合わせて同じ学校に通えるように、選べるようにしてもらいたい。

### 【事務局からの回答】

御意見をいただき、感謝いたします。次回の部会で、いただいた御意見を委員につたえ、今後の検討の参考とさせていただきます。

#### 【4件目】(Eメールによる御意見)

斎藤分小学校の統廃合に関して、意見をお伝えしたくメール致します。  
統廃合に関して、私としては反対です。

その上で、現時点で校舎の老朽化以外の問題はありません。統廃合をする必要はないと思います。

#### 理由

●小規模校を合併するという制度自体が、コロナ蔓延以前に制定されたもので、時代に合っているものとは思えません。

●斎藤分小学校の建替えを行う場合は他の学校と統合する必要があるとありますが、現時点で問題がないのにも関わらず統廃合前提で進める必要はないです。

建替えに伴い、グラウンドなどが狭くなるなどと理由が挙げられていますが、現在と同じものを作るのであれば問題はありません。

なぜ斎藤分小学校が無くならなければいけないような制度を持ち出しているのか、制度に沿わなくても十分に機能しております。

●全てが同じような規模、中規模から大規模の学校にすることで行き場を失ってしまう生徒は多いと思います。なんでもみんなと同じように行動し、その中で生活しなければいけないということ自体が登校拒否を増やす可能性もあります。また個性を尊重するという姿勢が見られません。実際小規模であることのメリットを見て越境して通学する子もいます。

●今後子供の質を高めていく面でも、生徒に目が届くような教育、小規模でのメリットを追求すべきです。教育費は今後の日本を考える上で減らすべきでないと考えます。

#### 【事務局からの回答】

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、7月4日に開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

《次頁あり》

## 【5件目】(Eメールによる御意見)

伝統ある斎藤分小学校はそのまま残してください。  
そしてニ谷小学校の老朽化による校舎の建て替えは計画通りに進めていただきたくお願い申し上げます。

前回の検討委員会で出された委員の発言は最近までニ谷小の生徒だった孫のことを思い出してとても酷い内容であると悲しくなりました。またそれに応える市教委からの回答は子ども達の事が優先されず通り一遍の回答になっている事にもがっかりしました。平川町公園はニ谷小の生徒たちの放課後の溜まり場の存在です。にも関わらず校舎を広げる際に公園の一部を利用するよう提案がありそれを受けた市教委は「公園管理者や利用団体に知らせる」と回答されています。これは子どものことが抜け落ちた意見と回答だと思います。現在中学生になって平川町公園の利用が無くなった孫からもそれは無いよね！と意見上がっています。最近その中学生と高校生の孫の会話で「斎藤分小の人はみんな穏やかだよね」と言う事を聞きました。それを聞いて小規模校ならではの、校長先生が日々心を砕いて一人ひとりの生徒と接してきた成果なのかな？と考えました。そんな斎藤分小の特に低学年の生徒たちの通学について本気で検討しているのかと疑問に思う回答がありました。

今年の夏は更に温暖化の影響で気温はうなぎのぼり。ただでさえ熱中症が心配の中での通学。距離も時間も増える子どもたちへの配慮が残念ながら感じられません。更にもし統廃合を進めるにしてもより通いやすい「学区の見直しを」との委員からの意見にも「統廃合が決まれば全員ニ谷小へ通う事になる」と言う冷たい返答には呆れてしまいました。

この回答はまさに「統廃合ありき」だと思います。                      《次頁あり》

この事一つとっても子どものための統廃合でなく大人(行政の側)の都合で進められていることがはっきりしてきました。

通学する生徒最優先の議論を市教委がリードしてくださるよう重ねてお願いいたします。

### 【事務局からの回答】

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、7月4日に開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



## 【6件目】(FAXによる御意見)

上記2校の統廃合問題について、市民の一人としての反対の声を聞いて下さい。

1. 学区が広くなると、通学の距離が長くなり、登下校の子供たちの負担も大きくなり、健康面、学習の集中力の面でとても心配です。
2. 斎藤分町の地域の方々が、地元の学校として子ども達を支えてくれている関係が、希薄になっていくのではと思います。
3. 団塊世代の私は、小学校・中学校と大規模で過ごし、大規模校の良さより、弊害を味わいました。もっと、ゆっくり友達とはなしたかった。先生との思い出もあまりありません。聞くところによると斎藤分小学校は、先生と子ども達の良い関係が保たれているとのこと。大事な小学校時代の人間関係は、厳しい大人社会に向かう子ども達にとってかけがえのないものになることと思います。
4. せつかくある学校を吸収合併するメリットは何でしょうか？逆に小希望校の良さを見直す時代ではないでしょうか？大事な人間形成の基礎となるかけがえのない小学校生活の場をこれを機会に親と子ども達で話し合う事が大事ではないかと思います。

## 【事務局からの回答】

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、7月4日に開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

《次頁あり》

**【7件目】(FAXによる御意見)**

この度、斎藤分小学校と二谷小学校を合併する計画があると聞きました。特に斎藤分小学校は校舎がなくなってしまうとのこと、今まで大切にしてきた学校の歴史が消えてしまうのは、とても大変なことです。地域を愛する心を養う為にも歴史ある小学校をなくさないでください。

合併することで規模が大きくなることも心配です。今、教育にもっと力を入れることが求められているのですから、小規模で、一人一人に寄り添える学校は大切です。

どうか2校を合併することは中止してください。

**【事務局からの回答】**

このたびは、御意見をお寄せいただき、ありがとうございます。

今回、いただいた御意見につきましては、7月4日に開催予定の検討部会で報告し、検討の参考とさせていただきます。

今後も、教育環境の整備に努めてまいりますので、御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 「斎藤分小学校・二谷小学校」建替えに伴う学校規模適正化等の検討について

## I 統合前後の学校の様子について

直近で学校統合等をした学校長へ統合前後の学校の様子についてヒアリングを行いました。

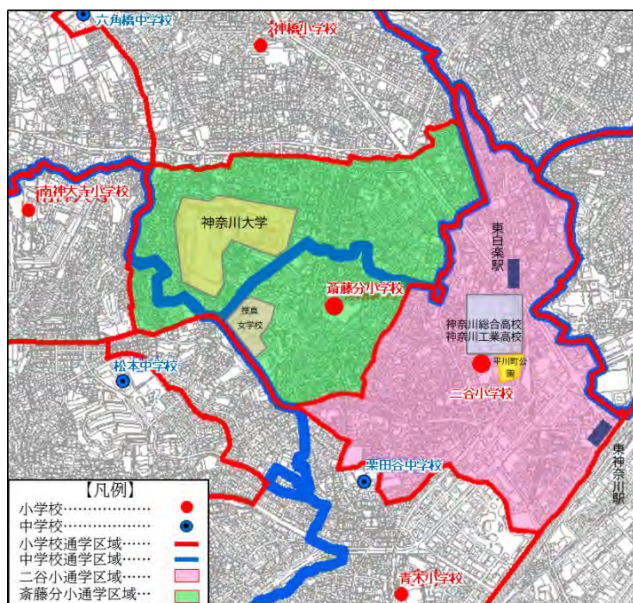
ヒアリング先：上菅田笹の丘小(旧上菅田小・旧笹山小)、旧すすき野小、菅田の丘小(旧池上小・旧菅田小)、丸山台中学校(旧野庭中・旧丸山台中)

	統合前の様子	統合後の様子
児童	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人間関係ができあがってしまい、子ども達は本来であればしなくても良い我慢を子どもなりにしている。</li> <li>◆同学年集団の形成ができない分、異学年集団での活動が多いので、上級生の面倒見が良くなる。</li> <li>◆人数が少ない分、子ども達も学校運営のために一人で何役も担う必要があり、積極的な子が多かった。</li> <li>◆少人数になると集団で学習するなかで、多様性を学べる機会を得にくい。</li> <li>◆小規模の集団で生活しているため、中学校や高校に進学した際に、大規模な集団の中で自主性を出すことに苦労している印象が受けられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆受入れ前はそのままが良いと言っていたが、統合後は友達が増えたと喜んでいたりの子も多い。</li> <li>◆遠足などの行事を学年ごとで行うことができた。</li> <li>◆高学年ほど統合に戸惑いがあった。心理的負担もあったと思う。</li> <li>◆特に低学年は友達が増えたことを喜ぶ子どもが多かった。</li> <li>◆同学年の様々な人と関わることで、切磋琢磨し、多様性がより広がる。</li> </ul>
教職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆転入学手続きや行事の準備など、一人で複数の学校運営に関する業務を担う必要があり、負担になっている。</li> <li>◆学年の運営を一人で担うため、多様な考えを持った教職員間において、議論を深めて運営を行うことができる組織を作りにくい。</li> <li>◆質の高い教育を提供するために他校で実施される研究授業などの研修に参加する時間を取りにくい。</li> <li>◆本来であれば経験を積んでから担うことの多い学年主任などの業務も、若手教員が一人で担わなければならない、運営に苦慮していた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教職員の人数が増えたことで、転入学手続きや行事の準備などの学校運営に関する業務を複数人で担当することができ、その分を授業の準備に費やすことができるようになった。</li> <li>◆統合初期は、統合前の学校での指導方法の擦り合わせがうまくいかずに、教職員同士のまとまりに欠けていた。</li> <li>◆他校で実施される研究授業などの研修に参加しやすくなり、能力向上に時間を費やすことができる。</li> <li>◆同一学年内に若手、中堅、ベテランをバランスよく配置することができ、安定した学年運営が行えるほか、若手の育成も行うことができる。</li> </ul>
保護者	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人数が少なく、役員を何度も担う必要があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆人数が増えたことで、負担が少なくなった。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆開校当初は両校の良いところだけを持ち寄っているの、全市のなかで一番良い学校を作ることができるチャンスと捉えている。</li> <li>◆統合校の開校まで、1～2年しか準備期間が無かったが、もう少し準備期間があった方が良かった。</li> </ul>	

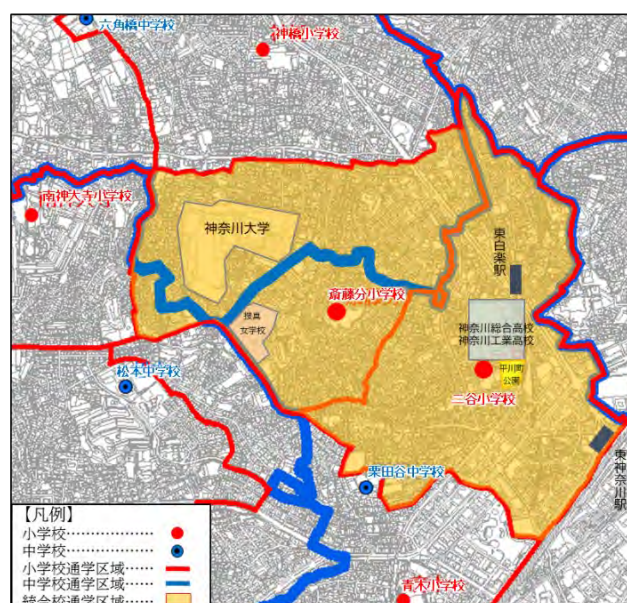
## 2 仮に統合になった場合の統合校の通学区域について

統合校の通学区域については、現在の齋藤分小学校と二谷小学校の通学区域を合わせた区域を想定しています。

### (1) 通学区域 (第2回部会にて提示)



(現在の通学区域)



(統合後の通学区域)

### (2) 特別調整通学区域設定の検討について

案	設定意図
ア	統合校までの通学距離が長い神奈川大学の北側及び西側を対象に、通学距離が短い神橋小学校、もしくは南神大寺小学校を選択できるようにすることで、通学への児童の負担軽減を図る。
イ	神奈川大学の北側及び西側のうち、中学校の通学区域に合わせて、六角橋中学校の通学区域については神橋小学校、松本中学校の通学区域については南神大寺小学校を選択できるようにすることで、通学への負担軽減を図るとともに、小中不一致の解消を図る。
ウ	六角橋自治連合会の繋がりや特性を考慮する。
エ	六角橋の繋がりや特性を考慮するとともに、中学校の通学区域に合わせて、小中不一致の解消を図る。

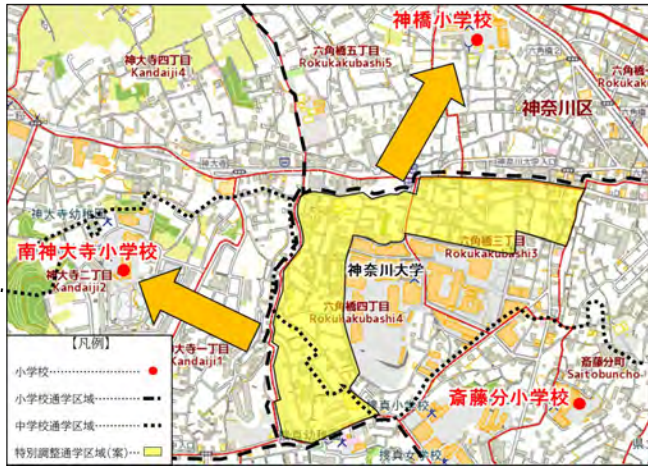


### 案ア

神奈川大学の北側及び西側の地域に、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

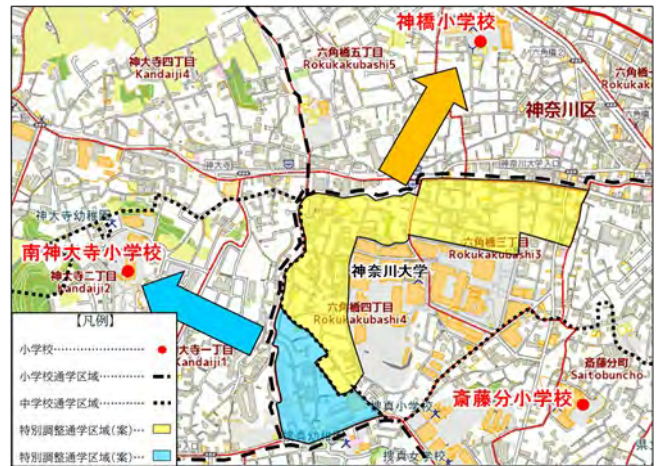
特別調整通学区域の設定パターン案

- ① 統合校または神橋小学校から選択
- ② 統合校または南神大寺小学校から選択
- ③ 統合校または神橋小学校、南神大寺小学校から選択



### 案イ

神奈川大学の北側及び西側の地域に、中学校の通学区域に合わせて、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

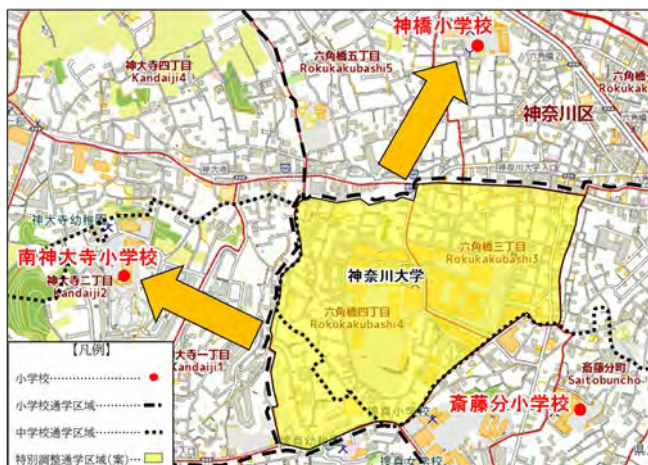


### 案ウ

六角橋三丁目・四丁目の全域に、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合

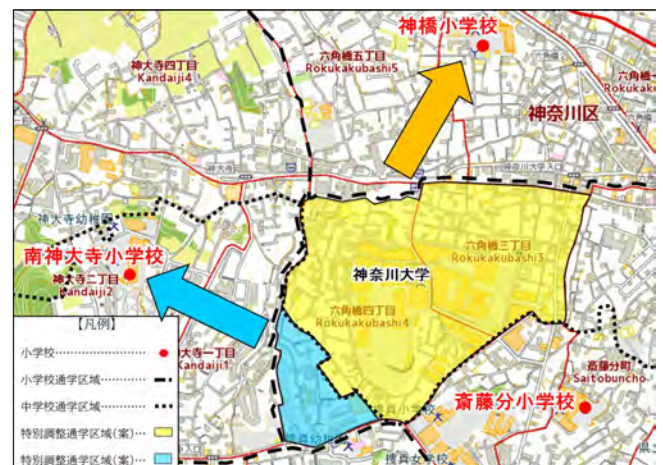
特別調整通学区域の設定パターン案

- ① 統合校または神橋小学校から選択
- ② 統合校または南神大寺小学校から選択
- ③ 統合校、神橋小学校、または南神大寺小学校から選択



### 案エ

六角橋三丁目・四丁目の全域に、中学校の通学区域に合わせて、神橋小学校または南神大寺小学校を選択できる特別調整通学区域を設定する場合



※中学校については、統合校との小中一致を考慮し、栗田谷中学校を選択できるように設定することも検討。



### 3 閉校後の学校施設の後利用に関する取組みについて

統合後、学校施設として利用しなかった23校の後利用検討状況について取りまとめところ、後利用検討委員会等が設置された16校のうち、8校で地域要望に基づく後利用施設となっています。残りの学校については、私立学校となった1校を除き、現在検討中です。

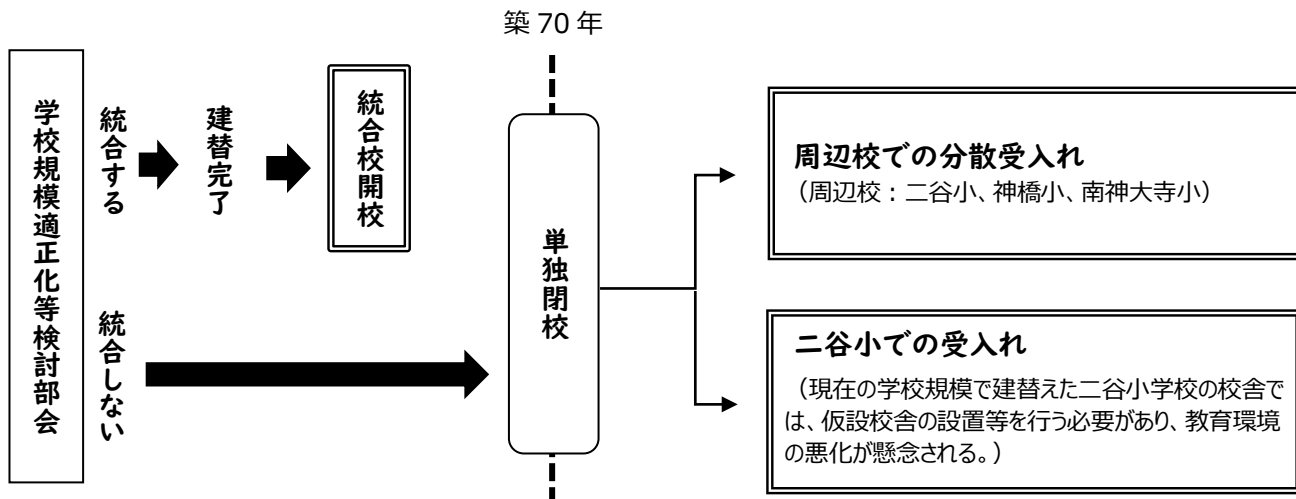
※網かけの学校は、後利用検討委員会未設置

旧学校名	閉校年	地域要望	後利用施設	備考
1 霧が丘第一小 (緑区)	H18		私立星槎中学校 (H31.4開校)	(H17.2~H17.12) 霧が丘地区小学校跡施設活用検討委員会
2 霧が丘第三小 (緑区)	H18	コミュニティハウス、図書館、文化スポーツセンター、 <u>地域ケアプラザ</u> 、災害時避難場所、養護学校、区出張所	複合施設「霧の里」(H20.4開所) 地域防災拠点 インド系インターナショナルスクール (H21.4開所)	
3 並木第三小 (金沢区)	H18	コミュニティハウスの継続・拡充 地域防災拠点・拠点本部の確保	横浜なみきりハビリテーション病院 (H24.9開所) コミュニティハウス	(H17.8~H18.2) 並木第三小学校跡利用検討委員会での意見
4 野七里小 (栄区)	H18	埋蔵文化財センター、 <u>地域防災拠点</u> 、 <u>地域利用</u>	埋蔵文化財センター (H21.11開所) 地域防災拠点 文化・スポーツクラブでの利用	(H20) 旧矢沢小学校・旧野七里小学校 後利用検討委員会での意見
5 矢沢小 (栄区)	H18	スポーツ需要に応じた公園、 <u>コミュニティハウス</u>	上郷矢沢コミュニティハウス (H25.3開所) 矢沢なかよし公園 (H24.1開園)	
6 若葉台東小 (旭区)	H19	市立特別支援学校、 <u>地域防災拠点</u> 、 <u>コミュニティハウス</u> 、 <u>福祉ボランティア拠点</u>	市立若葉台特別支援学校 (H25.1開校) <u>地域防災拠点</u>	(H18.11~H19.12) 若葉台地区小中学校跡地利用検討委員会での意見
7 若葉台西小 (旭区)	H19	公募事業(民間病院・私立学校)、高齢者向け福祉健康サービス音楽ホール、	私立星槎中等・高等学校 (H23.4開校)	
8 若葉台西中 (旭区)	H19	文化・芸術の分野における市民活動拠点、 <u>地域防災拠点</u>	検討中	
9 氷取沢小 (磯子区)	H19		横浜市上笹下地域ケアプラザ 特別養護老人ホーム「磯子自然村」 氷取沢小学校跡地公園	特別養護老人ホーム、地域ケアプラザ、公園の整備を市で検討し、地域に検討案を説明
10 野庭小 (港南区)	H20		よこはま港南地域療育センター 母子生活支援施設「カーサ野庭」 野庭消防訓練場 養護老人ホーム「野庭風の丘」	福祉施設、消防施設の整備を市で検討し、地域に検討案を説明
11 日向山小 (瀬谷区)	H22	<u>地域防災拠点</u> 、 <u>グラウンド</u> 等の継続利用	県立横浜ひなたやま支援学校 (H25.4開校)、 <u>地域防災拠点</u>	(H21) 後利用検討委員会での意見

	旧学校名	閉校年	地域要望	後利用施設	備考
12	ひかりが丘小 (旭区)	H23	学校教育施設、コミュニティハウス、地域開放、地域防災への参加、地域活動への参加	検討中	(H23～) ひかりが丘小学校後利用調整会議での意見 (H30.1、H30.11) 事業者向けヒアリング実施
13	富士見中 (中区)	H25	地域防災拠点	横浜吉田中第二グラウンド、 地域防災拠点、コミュニティハウス、 日本語支援拠点施設	「富士見中学校・吉田中学校」 小規模校対策検討委員会での意見
14	くぬぎ台小 (保土ケ谷区)	H25	小学校の建物の有効活用を図るとともに、地域防災拠点、コミュニティハウス、グラウンド・体育館の地域開放の維持を前提とし、周辺の環境との調和に配慮し、地域に貢献できる施設	検討中	(H25～) 川島地域のまちづくり検討会での意見 (H31.5、R2.10～R3.9) 事業者向けヒアリング実施
15	左近山小高小 (旭区)	H25		検討中	左近山地区小学校跡地検討協議会での意見
16	左近山第二小 (旭区)	H25	特別支援学校の移設、高齢者施設、住宅地の開発	市立左近山特別支援学校 (H31.4開校)、地域防災拠点	左近山地区小学校跡地検討協議会で説明
17	いちょう小 (泉区)	H26	コミュニティハウス、地域防災拠点	検討中	(H24) 「飯田北小学校・いちょう小学校」 小規模校検討委員会での意見
18	庄戸中 (栄区)	H27	高齢者福祉機能、子育て支援機能、コミュニティ活動拠点、環境を生かした魅力づくり	検討中	(H27～31) 上郷東地区まちづくり協議会・上郷東地区まちの再生活活性化委員会での意見
19	俣野小 (戸塚区)	H29	地域開放の継続、教室・会議室等の活用	検討中	俣野小学校の跡地利用に関する意見交換会での意見
20	笹山小 (保土ケ谷区)	R2	意見照会未実施	(上菅田笹の丘小学校仮校舎として利用)	
21	すすき野小 (青葉区)	R2	将来的な児童急増による学校施設としての活用も見据え、施設の維持管理や活用などへの配慮を要望	(すすき野中学校と一体的に利用)	「嶮山小学校・すすき野小学校」 通学区域と学校規模適正化等検討部会での意見
22	野庭中 (港南区)	R2	地域防災拠点、スポーツ施設、高齢者向け施設	検討中	(R元年5月) 野庭中学校跡地活用に関する要望書での意見
23	菅田小 (神奈川区)	R3	多世代交流の場・子供の居場所、スポーツができる場所、防災機能、医療サービス機能、行政サービス機能	検討中 (菅田の丘小学校仮校舎として利用)	(R元.1～R2.3) 菅田小学校跡地利用検討委員会での意見

#### 4 学校統合を行わなかった場合の齋藤分小学校について

今回、齋藤分小学校と二谷小学校が学校統合を行わなかった場合、建物の目標耐用年数である築 70 年時に、二谷小もしくは二谷小を含めた周辺校での受け入れを行う形で閉校することになります。



#### 懸念されるポイント

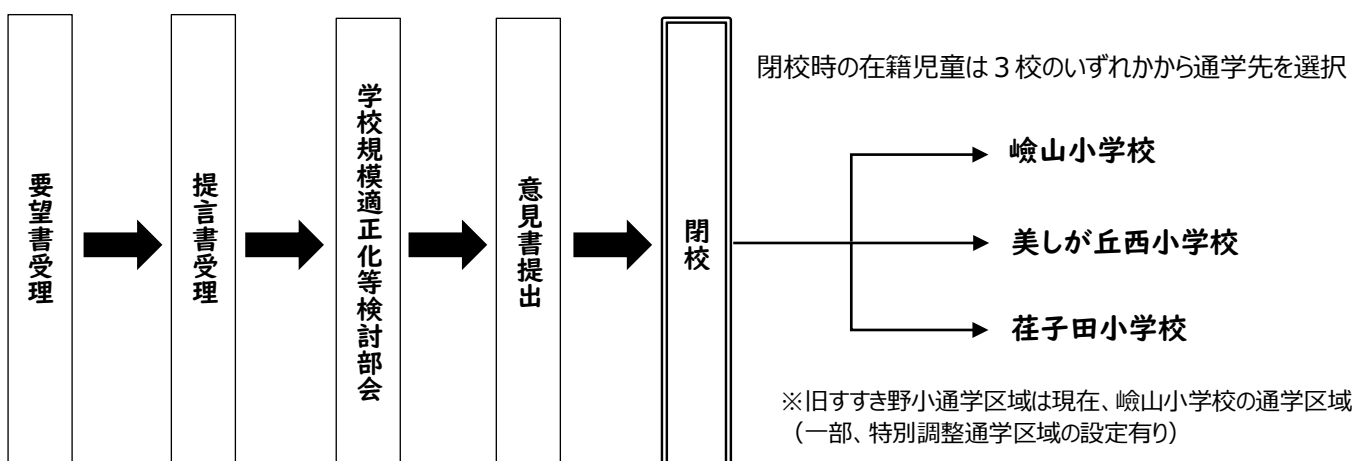
##### ■ 周辺校で分散受け入れする場合

- ・ 齋藤分小学校の児童が各校に散らばることで、子ども達が分断されてしまう。
- ・ 数校に通学区域変更されることで、地域が分断されてしまう。

##### ■ 二谷小学校で全児童を受け入れる場合

- ・ 児童数の推移からみると、現在の学校規模で建替えた二谷小学校の校舎で、齋藤分小学校の児童を全て受け入れることは難しい。
- ・ 齋藤分小学校の全児童を受け入れるためには、仮設校舎の設置等を行う必要があり、教育環境の悪化が懸念される。

#### 【参考】旧すすき野小学校(青葉区)における学校規模適正化等の流れ



## 5 国の少人数学級導入に関する動き

令和3年3月に義務標準法が改正され、令和3年4月1日より、小学校において段階的な35人学級の導入が始まり、令和7年度までに全学年が35人学級となります。

この動きを受けて、小学校35人学級の計画的な整備や、今後の指導体制の更なる充実を図っていく上での課題を国と地方が共有し、連携して課題解消に向けた方策を検討していくために、文部科学省と全国知事会等の自治体の代表で構成される「今後の教職員定数の在り方等に関する国と地方の協議の場」が設置されました。これまで2回協議が開催され、その中では、少人数学級の効果検証や教室不足への対応を含めた環境整備について議論されておりますが、現在、30人学級の議論は行われておりません。

### 開催概要（抜粋）

#### 【開催日】

第1回（令和3年5月17日）、第2回（令和3年11月19日）

#### 【主な意見】

- ・ 中学校についても35人学級の実現が必要。
- ・ 全国的に教員不足が指摘されており、質の高い人材の確保や教職の魅力化が課題。
- ・ 35人学級の実施に伴う教室不足への対応のため、増改築が必要など

## 6 建替校の施設について

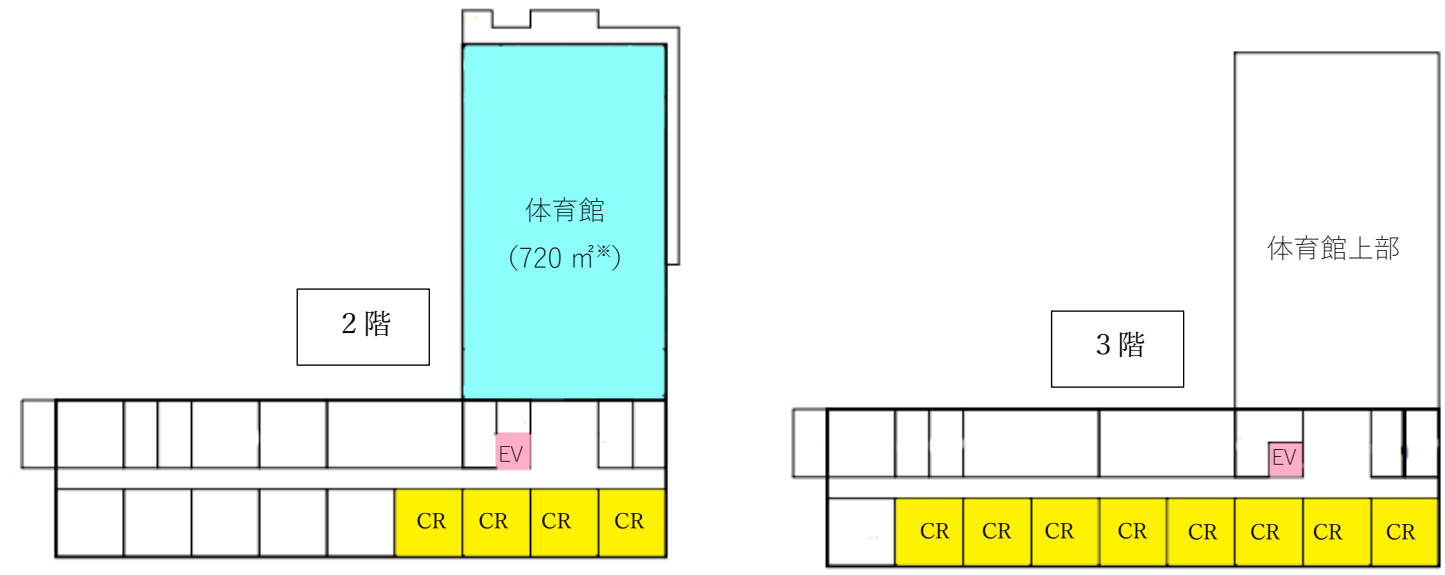
別紙参照

### 【仮に統合した場合の、建替後の屋内イメージについて】 (19学級分想定)

この資料は、参考資料です。仮に、このような校舎配置とした場合を想定しイメージ図を描いています。  
今後の設計等において、配置及び屋内の状況等は変更する可能性があります。

#### ① L字型案

1階 (主に管理諸室・キッズ等)



(参考) 二谷小既存グラウンド面積：2,173 m<sup>2</sup>、既存体育館面積：560 m<sup>2</sup>\*  
 斎藤分小既存グラウンド面積：2,426 m<sup>2</sup>、既存体育館面積：420 m<sup>2</sup>\*  
 ※体育館面積は、アリーナ面積を記載

#### ② 回廊型案

1階 (主に管理諸室・キッズ等)

